

Android 版 どこカメ®音声機能簡易操作マニュアル

V2.3

このマニュアルは Android OS に対応したどこカメ® VC クライアントアプリについて書かれています。このクライアントアプリからどこカメ® VC サーバに接続し、ボイスチャット機能を利用できます。

以下では、どこカメ®VC クライアントアプリのインストール、サーバ登録・設定、その他各種設定を説明します。このマニュアルはどこカメ®VC サーバを設置しているもしくはどこカメ®VC クラウドサーバに接続することを前提に書かれています。

このマニュアルでの画面は Nexus 7 と一部 AQUOS SHL25 のものです。

目次

I) インストール.....	4
II) サーバ登録設定・使い方.....	4
1) どこカメ®音声機能 アプリ起動.....	4
2) どこカメ®音声機能 サーバ登録の開始.....	5
3) サーバ情報の入力.....	5
4) サーバ登録の完了.....	6
5) サーバ接続画面.....	6
6) チャンネル移動&アクセストークン.....	7
7) 会話およびチャット.....	7
8) 上部メニュー.....	8
9) 左部メニュー.....	9
10) アクセストークン設定.....	9
11) チャンネルメニュー.....	10
III) 各種設定.....	11
1) 各種設定の表示.....	11
2) 各種設定画面.....	11
3) General.....	12
4) Authentication.....	12
5) Audio.....	13
6) Appearance.....	14

IV) 音声入力調整の方法	15
1) Push-to-Talk	15
2) Voice Activated	16

【更新】

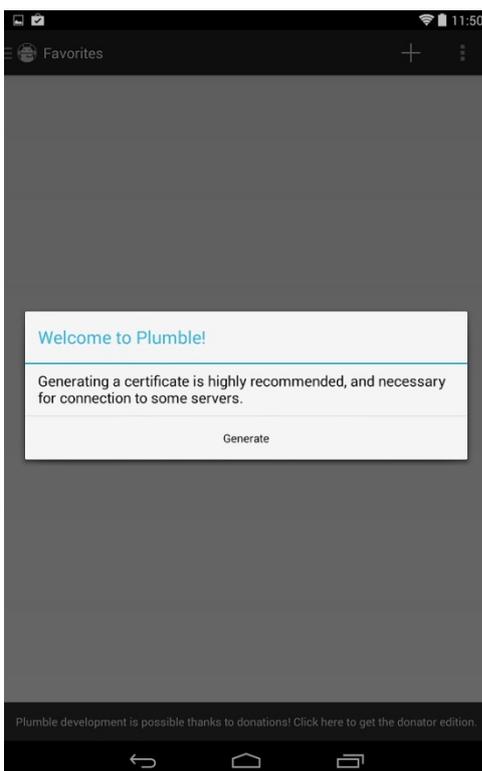
2014年2月18日	V1.0 作成
2014年3月14日	V2.0 作成 クライアントアプリ アップグレードに伴う変更
2014年3月15日	V2.1 作成 クラウドサーバ ドメイン名追記
2014年7月14日	V2.2 作成 IV) 音声入力調整の方法 追記
2015年5月7日	V2.3 作成 メニュー項目、音声設定項目を刷新。

I) インストール

Google Play でどこカメ®音声機能アプリ「Plumble-Mumble VOIP(Free)」を検索し、インストールします。

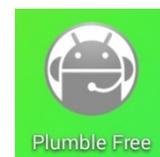


II) サーバ登録設定・使い方



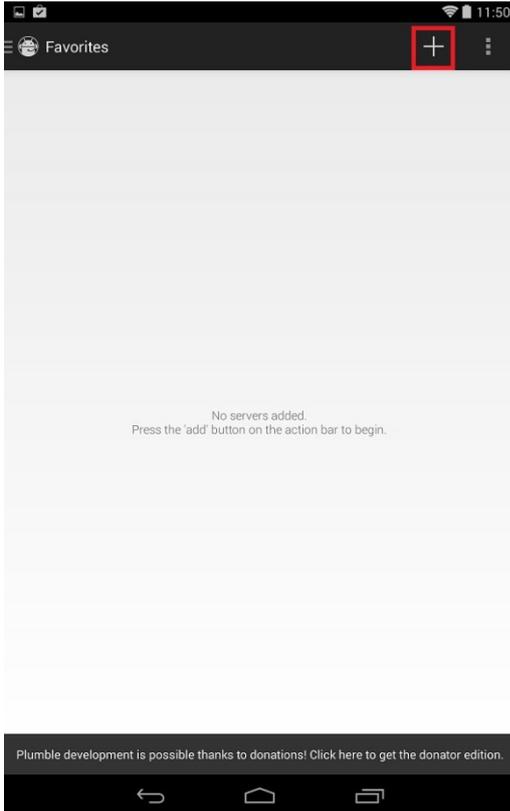
1) どこカメ®音声機能 アプリ起動

インストールした後、どこカメ®音声機能アプリのアイコンをタッチして、起動します。



初回起動時には証明書作成を行ないます。

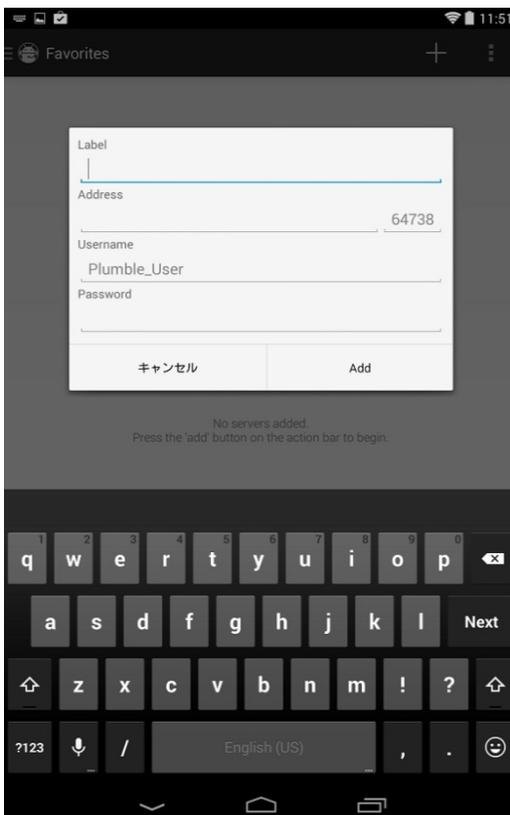
「**Generate**」をタッチしてください。



2) どこカメ®音声機能 サーバ登録の開始

サーバ登録画面が表示されます。

右上の「+」をタッチして、サーバの登録を行います。



3) サーバ情報の入力

サーバ情報入力の画面が表示されますので、サーバの設定を入力していきます。「Add」をタッチして確定します。

例)

Label: Dococame

Address: dococame1.sun.ddns.vc

Port: 64739

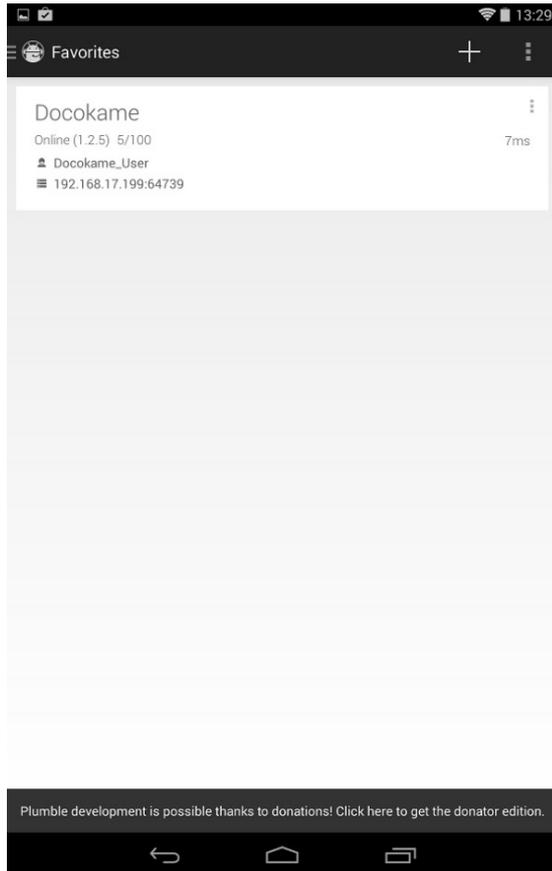
Username: Dococame_User

Password: *****

(*) Address および Port は接続するサーバの設定値を入力します。

Label および Username は任意の名前を入力できます。

サーバに Password が設定されている場合、入力してください。

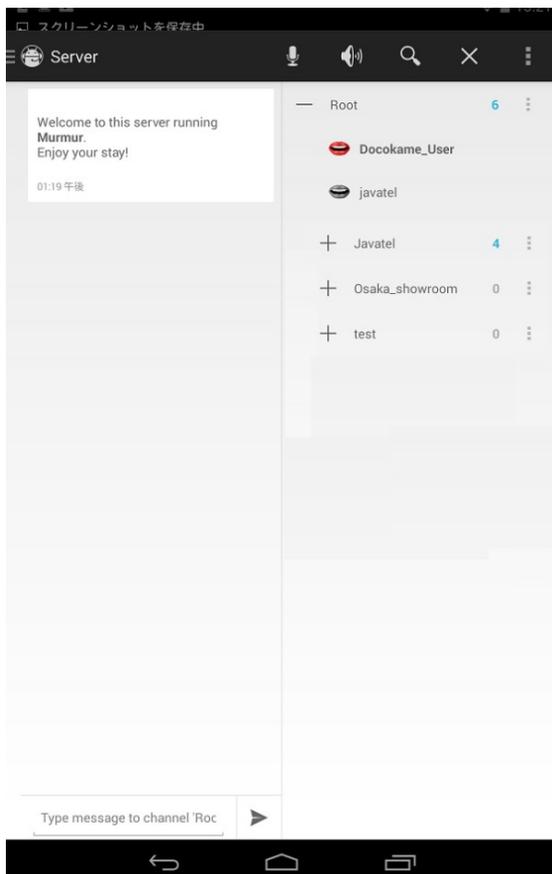


4) サーバ登録の完了

サーバが登録されると左図のように表示されます。
続けてサーバを登録するには「+」をタッチして3)
を繰り返します。

登録したサーバをタッチして、接続します。

認証を求められたら「Allow」をタッチします。



5) サーバ接続画面

サーバに接続すると左図のように表示されます。

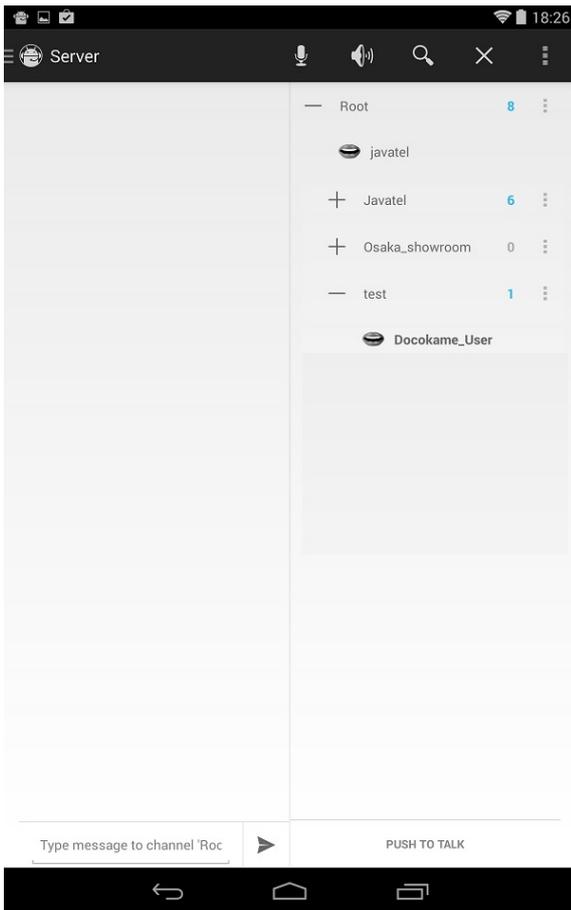
左：「Chat」エリア

自分自身や他のユーザからのチャット

自分自身や他のユーザの状況変化が文字情報として表示されます。

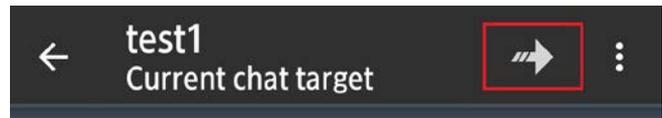
右：「Channel」エリア

サーバに設置してあるチャンネルや接続中の自分自身も含めすべてのユーザが表示されます。



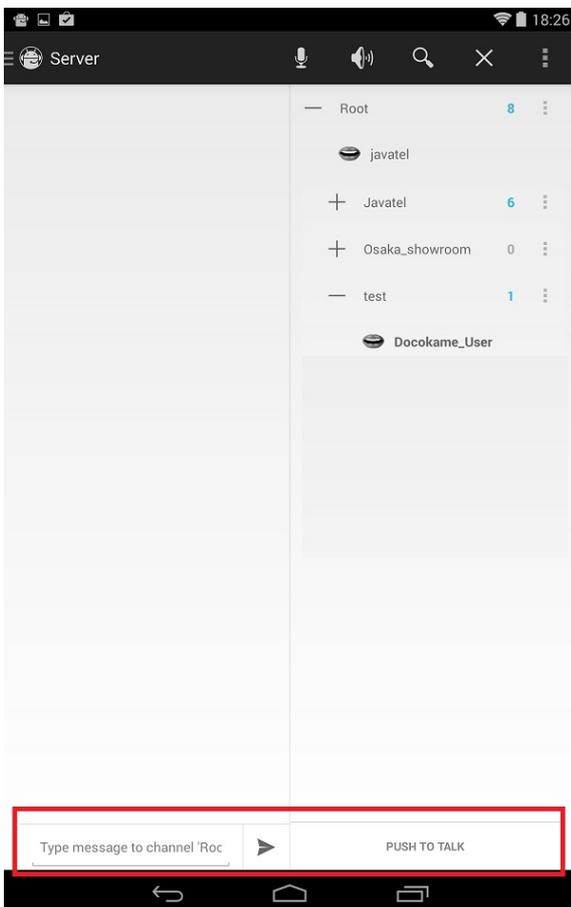
6) チャンネル移動&アクセストークン

サーバに **Root** 以外のチャンネルが設置してある場合、そのチャンネル名をタッチすると上部メニューに矢印が表示されるので、それをタッチしてチャンネルに参加します。



チャンネルにパスワードが設定されている場合、チャンネル参加にはアクセストークンの設定が必要です。

→ アクセストークンの設定は **10)** を参照してください。



7) 会話およびチャット

音声入力

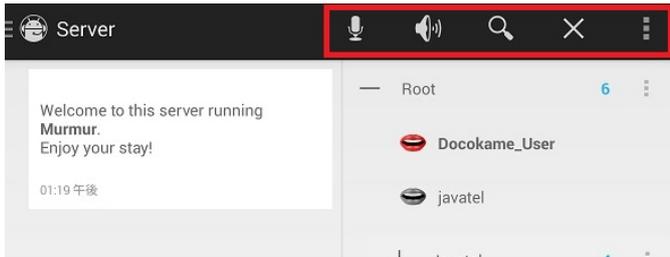
音声入力を **Push to Talk** 入力にしている場合、画面下の「Push to Talk」ボタンをタッチして話します。

Voice Active の場合、音声を認識して音声入力の有効になります。

音声入力がある間、自分自身のマイクマークが赤くなります。

チャット

参加しているチャンネルまたはユーザに対してテキストメッセージを送ることができます。



8) 上部メニュー

サーバ接続時に画面上部に表示されるメニューアイコンについて。



自分自身の発言 On/Off を設定します。



自分自身の発言および聴取の On/Off を設定します。



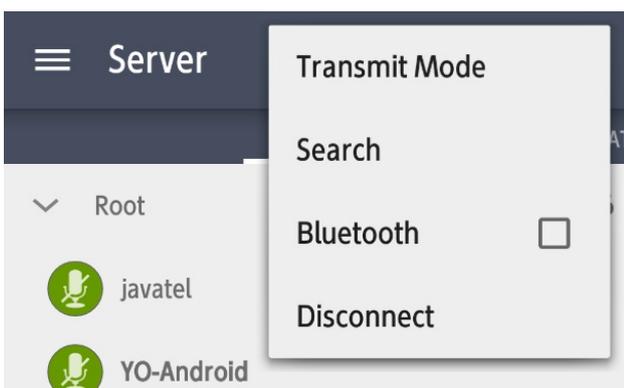
チャンネルおよびユーザを検索します。



「Chat」エリアに表示されている情報を消去します。



サブメニューを呼び出します。



サブメニューは下図のように表示されます。

Transmit Mode: 音声入力を選択できます。

Voice Activity: 音声を検知して入力を有効化

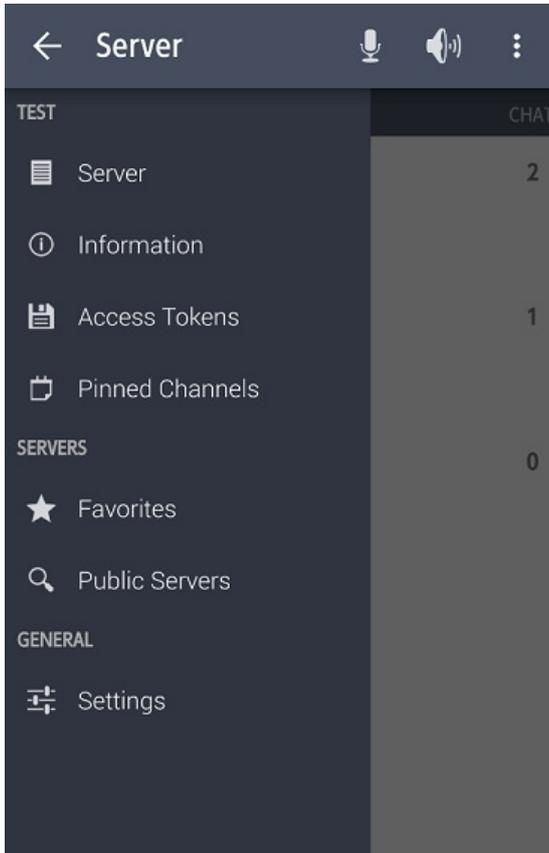
Push to Talk: ボタンをタッチしている間音声入力を有効化

Continuous: 音声入力を常時有効化

Search: チャンネルやユーザを検索します。

Bluetooth: Bluetooth 機器を使用する場合、チェックをいれます。

Disconnect: サーバから切断します。



9) 左部メニュー

左上の「Server」左のアイコンをタッチもしくは画面左側からスワイプすると左部メニューが表示されます。

Server: 接続中のサーバ画面を表示します。

Information: 接続中のサーバの情報が表示されます。

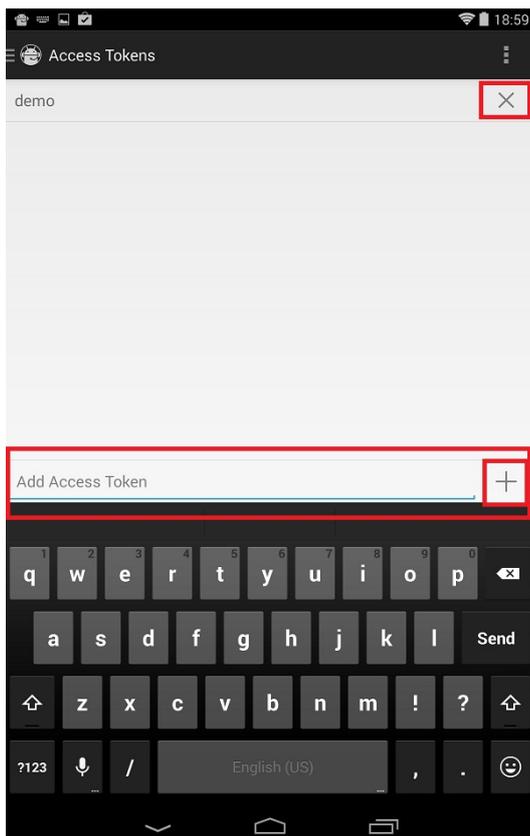
Access Tokens: アクセストークンの設定・削除を行ないます。

(*) パスワードが設定されているチャンネルに参加する場合、そのパスワードをアクセストークンで設定する必要があります。

Pinned Channels: お気に入りにした (Pin) チャンネルのみを表示します。

SERVERS Favorites / Public Server: 登録済みもしくは公開サーバを表示します。

GENERAL Setting: 設定画面に移動します。

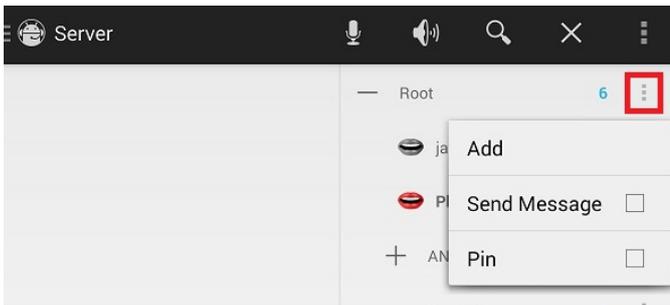


10) アクセストークン設定

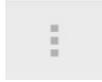
左部メニューから **Access Tokens** をタッチします。

Add Access Token をタッチしてアクセストークンを入力し、「+」をタッチして設定を完了します。

アクセストークンを削除するには、表示されているアクセストークンの右側にある「X」をタッチします。



1 1) チャンネルメニュー

チャンネルの右  をタッチするとチャンネルメニューが表示されます。

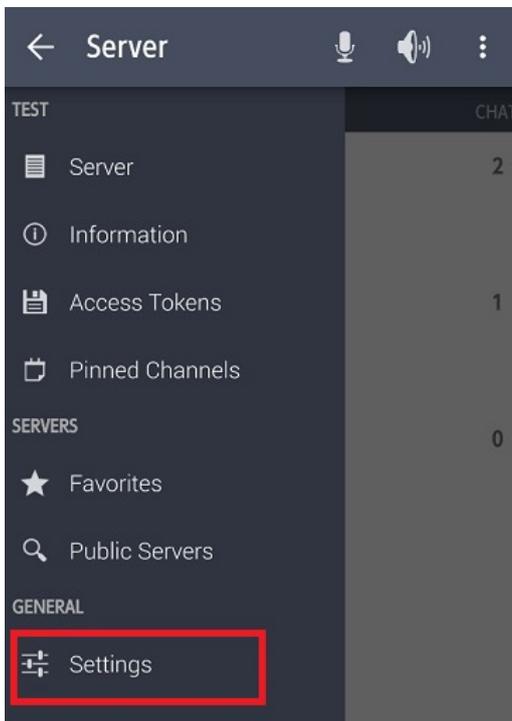
Add: 新たなチャンネルを追加します。

Send Message: チャンネルに対してチャットメッセージを送ります。

Pin: チャンネルをお気に入り登録します。

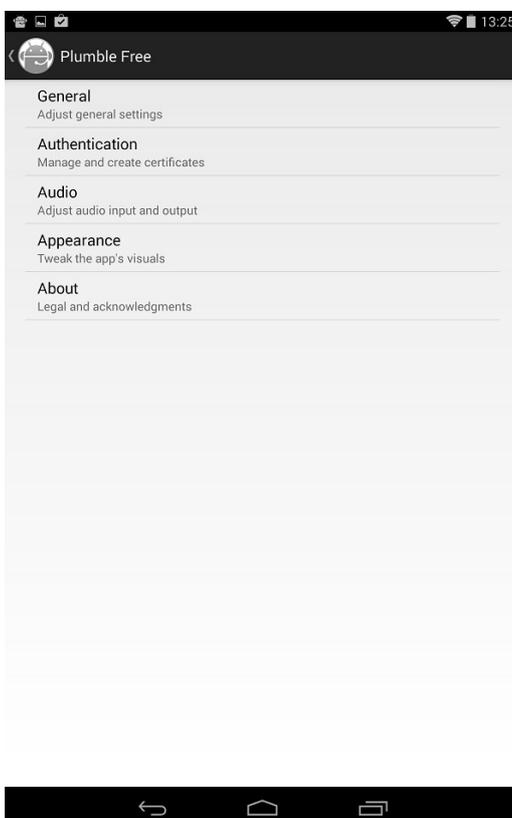
お気に入りチャンネルは左部メニューの **Pinned Channels** から表示できます。

III) 各種設定



1) 各種設定の表示

サーバ接続の左部メニューから **Settings** をタッチします。



2) 各種設定画面

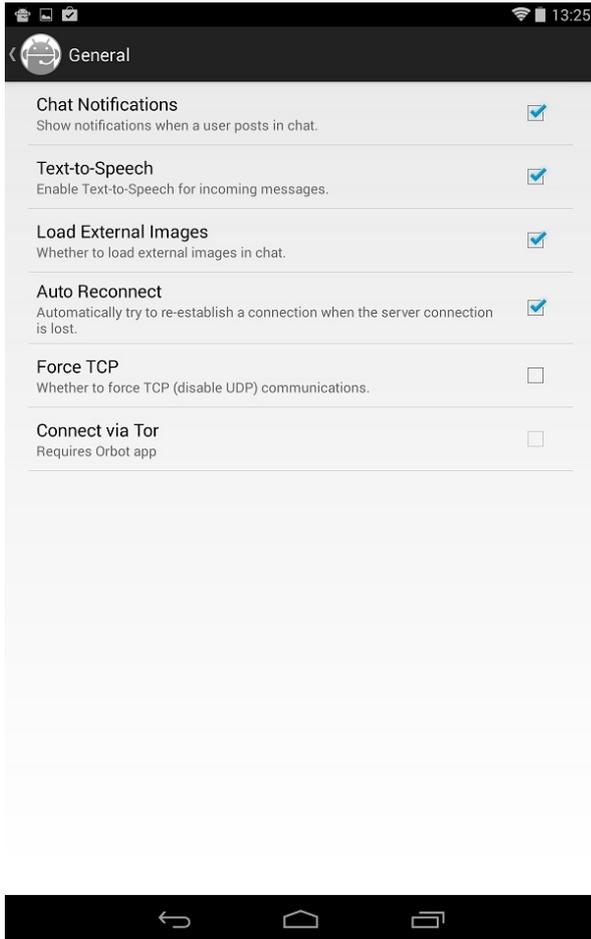
General: 一般設定を行ないます。

Authentication: 認証関係の設定を行ないます。

Audio: 音声に関する設定を行ないます。

Appearance: アプリの表示に関する設定を行ないます。

About: 本アプリの権利関係等についての表示。



3) General

チェックを入れることで有効になります。

Chat Notifications: Chat 画面にユーザからの投稿を表示させます。

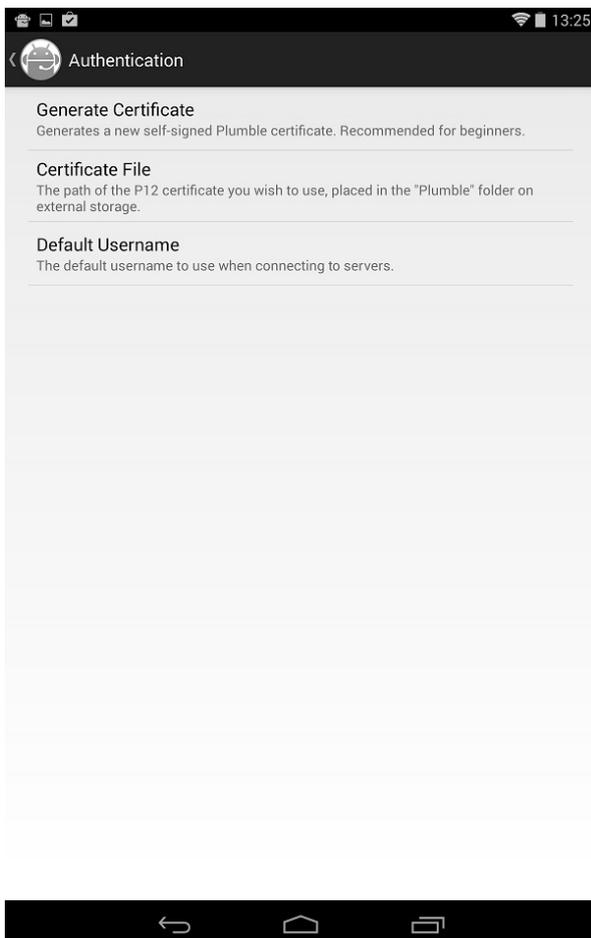
Text-to-Speech: 受信したメッセージを読み上げます。

Load External Images: チャットで外部画像を使用可能にする。

Auto Reconnect: サーバから切断したとき自動的に再接続を試みます。

Force TCP: 強制的に TCP 通信にします。

Connect via Tor: Tor 経由の接続にします。



4) Authentication

認証関係の設定を行ないます。

Generate Certificate: 証明書を発行します。

Certificate File: 証明書ファイルを表示します。(P12形式)

Default Username: サーバに接続する際のデフォルトユーザ名を設定します。

Transmit Mode

The method of audio input.

Handset ModeUses the front speaker and proximity sensor to simulate a traditional phone call. **Microphone Volume**

Microphone volume multiplier used to artificially normalize audio.

VOICE ACTIVITY SETTINGS**Detection Threshold**

The minimum amplitude required for voice to be detected (only applicable for voice activity).

PUSH TO TALK SETTINGS**Push to Talk Key**

A hardware key to bind to Push to Talk.

Push to Talk Hot Corner

A specified corner of the screen that, when pressed down, will push to talk throughout Android.

Push to Talk SoundPlay sound effect when Push to Talk **PUSH TO TALK SETTINGS****Push to Talk Key**

A hardware key to bind to Push to Talk.

Push to Talk Hot Corner

A specified corner of the screen that, when pressed down, will push to talk throughout Android.

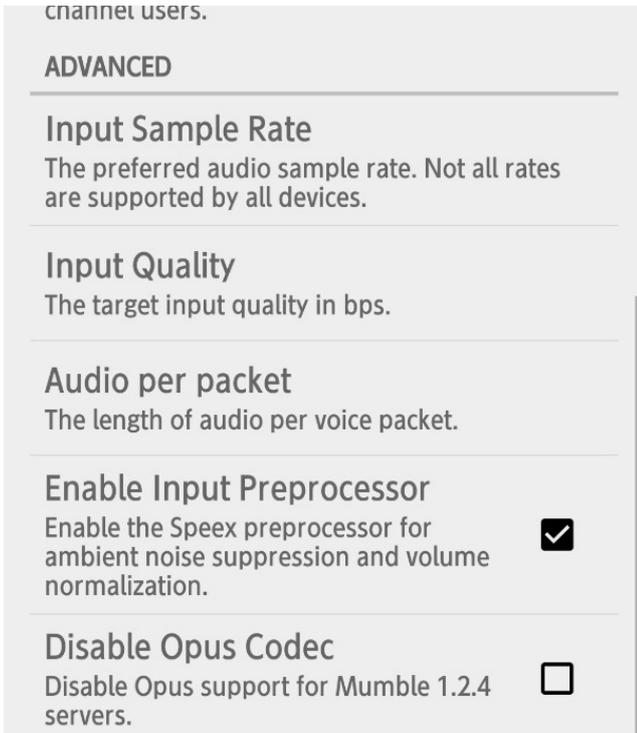
Push to Talk SoundPlay sound effect when Push to Talk button is pressed. **Hide Push to Talk Button**Hides the push to talk button when in push to talk mode. Useful if you use hot corners or a hardware key exclusively. **Toggle Push to Talk**Toggles push to talk on and off when pressed. **Half Duplex Mode**Mutes device sound when using push to talk, removing audio feedback for channel users. **ADVANCED****Input Sample Rate****5) Audio**

音声関係の設定を行ないます。

Transmit Mode: 音声入力を選択できます。**Voice Activity:** 音声を検知して入力を有効化**Push to Talk:** ボタンをタッチしている間音声入力を有効化**Continuous:** 音声入力を常時有効化**Handset Mode:** 従来の電話に近い形で使用できます。**Microphone Volume:** マイク入力の音量を調整します。**VOICE ACTIVITY SETTINGS****Detection Threshold:** Voice Active 設定時に、音声入力を有効化する閾値を設定します。

⇒ 音声入力検知される最少音量を設定します。

PUSH TO TALK SETTINGS**Push to Talk Key:** 機器本体のボタンを押すことで Push to Talk 機能を使えるように設定します。**Push to Talk Hot Corner:** ディスプレイのいずれか四隅をタッチすると Push to Talk 機能を使えるように設定します。**Push to Talk Sound:** チェックを入れると Push to Talk をオンにしたとき効果音が鳴ります。**Hide Push to Talk Button:** チェックを入れることで Push to Talk ボタン表示を隠します。**Toggle Push to Talk:** Push to Talk ボタンをトグル入力に変更します。**Half Duplex Mode:** 半 2 重通信に設定します。



ADVANCED

Input Sample Rate: 音声入力のサンプルレート設定。

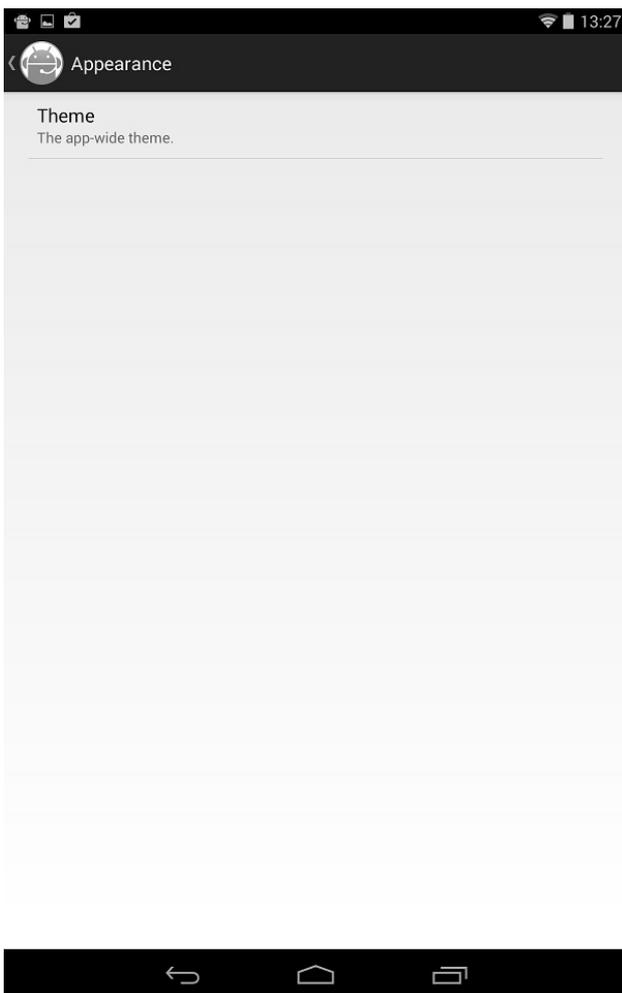
(*) デバイスによって対応しないレート設定もあります。

Input Quality: 音声入力の品質(bps)を設定します。

Audio per Packet: 音声パケットごとのオーディオパケット長を設定します。

Enable Input Preprocessor: Speex を有効にします。

Disable Opus Codec: チェックを入れると音声圧縮の Opus Codec を無効にできます。



6) Appearance

インターフェースを変更します。

Theme: サーバ接続時の画面表示変更します。

「Light」

「Dark」

「Solarized Light」

「Solarized Dark」

IV) 音声入力調整の方法

このアプリケーションで重要な設定項目です。

人間は雑音と音声を区分します。しかし、機械では限界があります。どれだけ雑音の影響を排除し、音声をキャッチできるかが重要です。

1) Push-to-Talk

プッシュ・トゥ・トーク設定 (→ III) 各種設定 5) Transmit Mode)

サーバ接続時に画面下に表示される「PUSH TO TALK」ボタンをタッチしている間、音声入力が有効になります。

ボタンのタッチをやめると、音声入力が無効になります。

○音声をキャッチするための特に難しい設定は要りません。

○話したいタイミングで音声入力を有効にし、話し終えたら音声入力を無効にします。

2) Voice Activated

ボイス・アクティブ設定 (→ III) 各種設定 5) Transmit Mode)

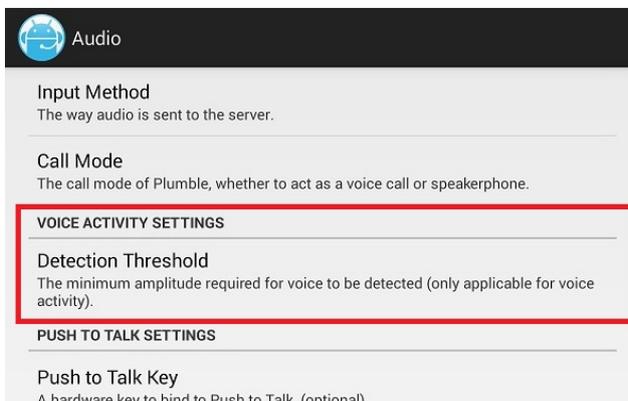
音声入力を機械が判別してキャッチする機能です。

Voice Activity: 音声を検知して入力を有効化します。

**この機能は専門的には VOX 機能と言います。*

VOX 機能とは、音声を感知すると自動で送信状態になり、次に音声を感知しなくなると、自動で送信スイッチが OFF になります。(ハンドフリー)

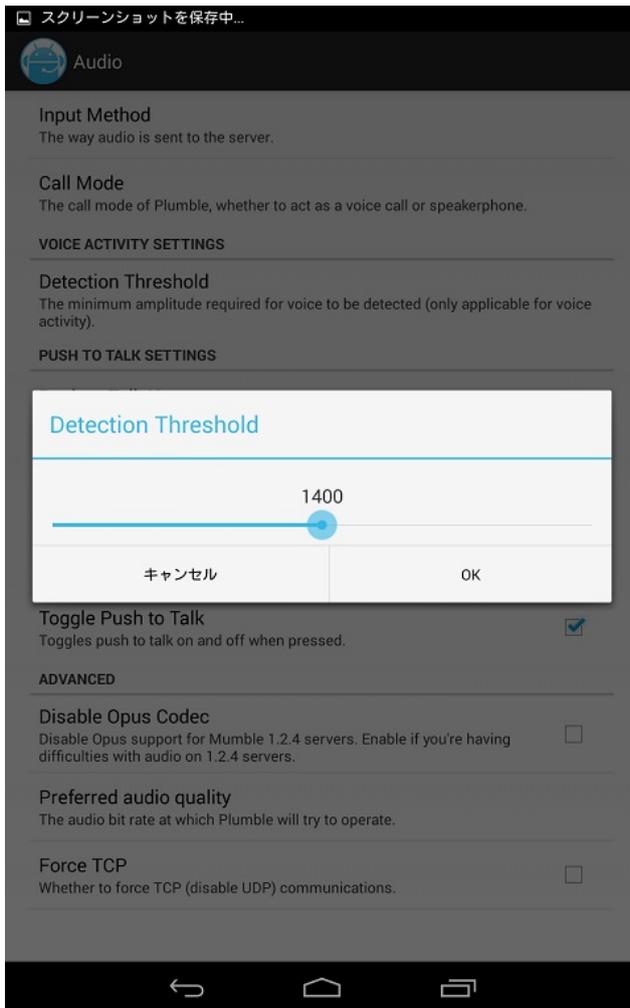
○音声入力を有効にする検知音量の調整をします。



i) VOICE ACTIVITY SETTINGS /

Detection Threshold:

Voice Activity 設定時に、音声入力を有効化する閾値を設定します。



ii) 最少検知音量設定

音声入力検知される最少音量を設定します。
バーをスライドさせて、音量を設定します。

⇒ 設定した数値より音量が大きくなると、音声
入力が有効になります。

* 音声入力有効になっている場合、サーバ画
面でマイクアイコンが赤くなります。

* 周囲の音環境（ノイズ等）を考慮した検知音量設定をします。

□ 周囲のノイズが小さい場合：

- ・ 自然な音量で喋って入力が有効になる数値を設定します。
(設定する数値は比較的小さくてもよいかもしれません。)

□ 周囲のノイズが大きい場合：

- ・ 設定する数値を大きくします。
- ⇒ 周囲のノイズで音声入力が有効化されないように調整します。
その場合、音声で検知を有効化するためにはより大きな声で話す必要があります。
(状況によっては Push To Talk で対応します。)